● 谷津の話

谷津の生い立ちから見ていきましょう。
10 万年前は温度が高く、ここ一帯は海の底で、古東京湾の一部でした。
その後寒冷化が進むと水位が下がって陸地となり、川の急な流れによって削り取られて、谷ができました。
再び温度が上昇すると共に水位が上がり、低地は海となり、谷の底には土壌が堆積していきました。それは縄文海進と呼ばれています。
この一帯は香取海と呼ばれ、銚子の方と繋がった内湾でした。

この周辺にはあちこちに貝塚があります。今私たちが立っている所は、縄文時代は内湾の一部で海だった所です。現在は、当時より気温が低下したため陸地になっています。
このようにしてできた低地と斜面を含めた地形を谷津といいます。
堆積物が溜まった低地を水田として利用している場合が多く、その水田を谷津田といいます。
水の利用では、斜面の絞り水と水田の上の方に貯めた池の水を利用していました。利用した水は中心部を流れている一本の排水路に流します。

今は手賀沼からの灌漑用水を使って、水田耕作をしています。
肥料として、昔は斜面の草木を利用していましたが、この場所は手賀沼に近いので、手賀沼の水草を使っていました。それは手賀沼に溜まった有機物を外に取り出すことになり、沼の浄化に大きな役割を果たしてきました。

ところで、神奈川県で見られる谷戸は、地形のでき方が谷津とは異なります。
谷戸の水田では丘陵部から流れてきた水を利用し、そして排水しますから、用水路と排水路は一緒です。
谷津と谷戸は地形のでき方も、水の利用方法も違っています。　（浅間茂）

Copyright © 2025NPO Sizen Kansatu Daigaku. All rights reserved.
戻る https://sizenkansatu.org/marugoto2025_1_rp.html